

最善のエンタープライズMac管理

仕事に合ったツールを選ぶ

10年前、Macは企業ではあまり採用されておらず、企業のIT部門からは当然のように無視されていました。現在では、Macプラットフォームが組織に適している訳を実感している企業ユーザーやIT担当者が増えています。Dimensional Research社*による最近の調査では、ビジネスで使用されるAppleデバイスは過去3年で2倍以上に増加しており、今後もさらなる成長が見込まれています。

*modernmobileworkforce.com

マルチプラットフォームツールではAPPLEは付け足し

組織内でのMacの使用が増加の一途をたどる中、ITグループは既存の管理プロセスをMacプラットフォームにまで拡張する方法を模索しています。管理に関する1つのアプローチとして、1つのツール内でWindowsとMacを管理できるマルチプラットフォームツールの使用があります。ほとんどの場合、これらのマルチプラットフォームは最初にWindows向けが構築され、第2の対策としてMacサポートが追加されます。これにより多くの場合、WindowsとmacOSの両方の開発サイクルを停滞させまいとして、機能性に格差が生じ、不必要なアップデートが発生します。

EMMツールではMACOSに対応できない

最近では、EMM（エンタープライズ・モビリティ・マネジメント）ソリューションの開発者は、MacをMDM（モバイル・デバイス・マネジメント）コマンドを使用するモバイルデバイスとして管理する機能を提示しています。Macのノートパソコンは実際にはモバイルデバイスですが、macOSの管理には、システムアーキテクチャの違いとそれらの使用方法が原因で、スマートフォンとタブレットを超える能力が必要になります。EMMソリューションには通常、導入機能やイメージング機能など、macOSの管理の成功に必要な機能がありません。さらに、短期的なニーズには対応できますが、大規模な導入と管理には不十分です。

ドライバーで釘をたたいてはならない

一流のIT組織はmacOS特有の機能を認識しており、既存のITインフラストラクチャーと統合するAppleプラットフォームのために最善のツールを選択しています。このアプローチにより、専門性と統合性が理想的なバランスでもたらされ、ITの効率性が向上し、素晴らしいユーザーエクスペリエンスが得られます。

このホワイトペーパーでは、Mac管理の3つの主要分野の概要と、最善のMac管理ソリューションの利点をご説明いたします。

- 1.インベントリー
- 2.導入
- 3.セキュリティ

1. インベントリー - 完璧な管理を開始できる場所

インベントリーはあらゆるIT管理システムの基盤です。総合的なデバイス管理を実現するために、IT管理者は信頼性の高

い最新のインベントリーを必要とします。これにより、ハードウェアコンポーネント、ソフトウェアバージョン、セキュリティ構成など、全てのデバイスにおける現在の状況を確認することができます。

Jamf Proは、macOSの根本的なアーキテクチャーを基礎からサポートするために構築された完全なMacクライアント管理ツールであり、IT管理者に対して次の方法でインベントリーデータを収集できる柔軟性を提供します。

- 拡張性がありカスタマイズが可能な方法
- 統合されている方法
- すぐに実施でき、審査が可能な方法

拡張性がありカスタマイズが可能な方法:可能性は無限大

ダイナミックなインベントリー機能により、IT管理者はカスタマイズ可能なフィールドを無限に作ることができます。これらのフィールドは、自由な形式で入力できるようにしたり、Macから自動でデータを収集するように設定したりすることができます。テクノロジーインベントリーの審査を支援するために、Jamf Proでは、IT担当者がソフトウェアライセンス、(AppleのGlobal Service ExchangeまたはGSXとの統合による)ハードウェアの保証期限、セキュリティコンプライアンスのレポートなどを監視および管理できます。

macOSとの強固な統合を利用して、Jamf Proは、インベントリーをシンプルで安定したものにするだけでなく、デバイスのステータスに基づいてソフトウェアとコンテンツと設定の導入状況を詳しく調べることができます。例えば、ソフトウェアのアップデートと互換性があり、そのソフトウェアのライセンスを取得しているが、アップデートがまだ適用されていない機器で、インベントリーを使用すればそのソフトウェアを自動でアップグレードすることができます。Jamf Proは、予定されているインベントリー収集時にmacOS機器と通信することで、完全にカスタマイズ可能なインベントリーを自動化します。

これらの高度なインベントリー機能により、ハードウェアやソフトウェアの購入、セキュリティコンプライアンス、リソース配分に関して情報に基づいて判断を下す場合に必要となるデータが得られます。Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) の資産インテリジェンスと同様です。

マルチプラットフォームとEMMツールはインベントリー機能を制限してしまいます。その一方で、マルチプラットフォーム

ツールは多くの場合インベントリ機能が制限されます。これはシステム間の公平性の維持というニーズによるものです。Windows PCとMacは数多くのインベントリ属性を共有していますが、そこにはいずれかのシステムにおいて特有の基準に関するニーズが付きまといまいます。マルチプラットフォームツールの使用コストは機能に関してはトレードオフです。ツールは手を上げすぎる傾向にあり、それが不適合やインベントリの信頼性の低下につながります。

EMMソリューションはインベントリに関してMDMのみに依存しているため、同様の問題が発生します。MDM経由で利用できるインベントリオプションをOSの製造元が定義するため、EMMインベントリソリューションは制限されて拡張性が乏しくなるのです。この場合、IT管理者は必要なデータを収集するために、制限されたインベントリと第二のシステムの実装のいずれかを選ばなければなりません。

統合されている方法：MACとMICROSOFTの互換性

SCCM等の最善のWindowsクライアント管理ツールを使用している組織に対して、Jamf Proは、Macインベントリデータを共有するための統合機能を提供します。これにより、インベントリレポートに関して、最善の管理ツールと1つのシステムの完璧なバランスを維持できます。この機能を利用すれば、IT管理者はmacOSデバイスの管理を既存の環境に簡単に統合でき、1枚のガラスで環境内の全デバイスを可視化できます。

堅牢なAPIによる統合の簡易化

Jamf Proは、SCCM統合に加え、他のITシステムとの統合を実現するために堅牢なAPIを提供します。APIは、Jamf Proの拡張可能でダイナミックなインベントリ機能を組み合わせることで、広範な統合機会を提供してインベントリデータを投入し組織全体で機能させます。

実行可能な方法：適切なユーザーへの適切なタイミングでの導入を追求

インベントリが収集されると、IT管理者は、ソフトウェア、コンテンツ、設定、スクリプト、メッセージ、メンテナンスタスクの導入などの実施可能な成果を構築する能力を必要とします。この能力によりインベントリデータは実施可能なインテリジェンスへと変換されます。

Jamf Proを利用すれば、管理者はデバイスの状況に基づい

て、インベントリ基準や、近接度に基づいたロケーションを管理することができます。Jamf Proはこの点で、EMMツールやマルチプラットフォームツールと異なっており、IT管理者はインベントリ拡張機能を獲得でき、デバイス状況属性にも視野を広げることができます。例えば、IT担当者は機密性のあるアプリケーションデータが保存されているデバイスをすべて暗号化することができ、特定の建物や部署内でソフトウェアを機器に導入することができます。

Jamf Proによりダイナミックなインベントリが自動化され、ITは無限に拡張できるインベントリの無数の属性に基づいて導入を詳しく調べることができます。これにより、ITは絶え間なく変化する環境において、活動範囲を適切なロケーションにまで拡大すると同時に、整合性と互換性と適合性を維持できます。

2. 導入 – 拡張性と持続性の確保が必須

Macの拡張可能な導入をサポートするために、IT管理者は以下に関して計画を立てる必要があります。

- 導入モデル
- ディレクトリサービスの統合
- Self Serviceツール
- 配分

導入モデル：モノリシック対モジュラーイメージング

大半のマルチプラットフォーム管理ソリューションは、1つのモノリシックイメージで新規デバイスをイメージする機能しか提供できません。しかしこの方法論で大規模な組織の要求を満たせることはめったにありません。

Jamf Proでは、モノリシックイメージングの代わりに、パッケージベースのモジュラーイメージングを提供します。このイメージングではIT管理者は、カスタムパッケージのライブラリを構築してそのライブラリのイメージング構成をいくつでも編成できるのです。イメージをモジュールで構築および導入することで、時間を要するプロセスの再構築を行うことなく、パッケージを再使用してアレンジし直し、新しいカスタムイメージを作成できます。

ニーズに合った導入モデルの確保

Jamf Proは他の管理ツールとは異なり、Apple独自のテクノロジーの利点を活かして複数の導入モデルに対応できます。高速のThunderboltデータバスをターゲットディスクモードと併用することで、最高のイメージング速度を確保できます。代わりにNetBoot (Windows PXEに似ている) を

使えば、ネットワーク上での分散イメージングを実行できます。Jamf Proはさらに、Mac、iPad、iPhone向けのAppleのデバイス登録プログラム (DEP) にも対応しています。このプログラムでは、登録および構成手順がデバイス・アクティベーション・ワークフローに追加され、導入プロセスが合理化されます。この柔軟性のおかげで、IT管理者はさまざまな環境に合わせてMac導入を速やかに実施できるのです。

ディレクトリサービスの統合：簡単なAD結合

Mac管理をサポートするMDMツールには、ユーザーアカウントをプロビジョニングするためにデバイスを手動でディレクトリサービスに結合しなければならないものが

数多く存在します。Jamf Proを使えば、IT管理者はユーザー認証のために、Macをイメージングワークフローの一部としてActive Directoryに結合できます。Active Directoryのスキーマに変更を加える必要はありません。これにより、ネットワークアカウントを介してユーザー認証を与えるのに必要な手動によるプロビジョニング手順の数が減るため、作業時間が節約でき、適合性も確保できます。

SELF SERVICE:オンデマンド導入

IT管理者はベーシックなMDMツールを使って、MacアプリストアとMDMペイロードを経由してMacにソフトウェアとアプリケーションを導入できます。しかし大半のMDMツールでは、カスタマイズ可能なインストールオプションを使用できません。マルチプラットフォーム管理ツールでも同様に導入オプションが制限されています。これはWindowsとmacOSアーキテクチャ間におけるOS格差が原因です。Jamf Proはこれらとは異なり、ソフトウェア導入とパッチングに関して強力なポリシーエンジンを提供します。

ITにとっての管理：ユーザーにとっての自由

1つまたは複数のソフトウェアパッケージを複数のフォーマットで導入するために、ポリシーを作成できます。システムイベントが発生すると、一定の日時で、あるいはシステムインベントリの変更により、自動的にパッケージを起動させることができます。

ワンステップのDIYショッパ

Jamf Proではソフトウェアは、ITがオンデマンドでインストールすることもできますし、ユーザー自身がSelf Serviceアプリを通じて起動することもできます。Jamf ProのSelf Serviceツールでは、アプリのインストールにベーシックなアクセスを提供する大半のエンタープライズ・アプリ・カタログとは異なり、アプリのインストール、ソフトウェアのアップデート、メンテナンスタスク、Macの設定を1つの場所で行えます。

これらのオプションをユーザーが利用できるようにすれば、ヘルプデスクへの問い合わせ件数を削減して混乱をなくすだけでなく、ITがインストールプロセスを確実に管理および維持できます。

iBeaconの統合：位置に基づいた分配と管理

多くのMDMソリューションでは、GPS位置データを使い、ユーザーの位置に基づいて、アプリケーションやコンテンツや設定の分配および管理を行っています。ただしGPSには、思いどおりの成果を挙げようとすれば効果が制限されるという大きな落とし穴があります。GPSは屋内では精度が低く（大気透過率と建物透過率の限界が原因）、デバイスのバッテリーを浪費する可能性があります。

また、職場を離れていても居場所が追跡されるため、ユーザーにプライバシーの侵害を感じさせます。

近接度によりアクションが発生する

Jamf Proは、iBeaconに近接するとデバイスがアクションを実行できるようにするAppleのiBeaconテクノロジーに統合されます。iBeacon統合によりJamf Proは、ユーザーのiBeacon近接度に基づいて、ソフトウェア、コンテンツ、設定の分配や管理を行うことができます。この方法では、精度の確保、ユーザーのプライバシーの確保、Appleエコシステム内でのシームレスな統合を実現でき、十分な拡張性が得られます。

3. セキュリティ - サードパーティはネイティブに勝てない

macOSには、データセキュリティとアプリケーションセキュリティとユーザー認証のための、強力なセキュリティコントロールが含まれます。これをAppleを意識した最善の管理プラットフォームと併用することで、ITグループは、第三者ユーティリティをさらに複雑化することなくセキュリティに関する素晴らしいオプションを獲得できます。

データセキュリティ：設置時と送信時

FileVault 2はmacOSに内蔵されているディスク暗号化システムであり、ユーザーへの影響を最小限に抑えたエンタープライズ級のデータセキュリティを提供します。Jamf Proは、IT管理者が暗号化とエンクロー・リカバリー・キーを強化するために必要とするFileVault 2管理コントロールを提供します。サードパーティツールではなくネイティブの暗号化フレームワークを使用することで、コストと複雑性が軽減され、OSアップグレードが支障なく実行できます。

シームレスでさりげないセキュリティ

送信時のデータを保護するため、macOSは多数のバーチャル・プライベート・ネットワーク (VPN) のプロバイダーへのネイティブサポートを提供します。Jamf Proでは、内蔵VPNクライアントを構成して安全に接続するためのツールを提供しており、ユーザーはおなじみのユーザーインターフェースを利用できます。

セキュリティに対するこのネイティブアプローチは、Appleのアップデートサイクルに遅れをとることが多く、Apple専用セキュリティコントロールに対応できないことがある、EMMとマルチプラットフォームMDMのソリューションでは、常に可能というわけではありません。

アプリケーションセキュリティ：高い信頼性と恒久性

優れたアプリケーションセキュリティへの最初の一步は、バージョンコントロールとパッチングです。Jamf Proにおけるインベントリと導入ツールの組み合わせにより、分配されたMac環境へのOSとアプリケーションのパッチングが簡単になります。全てのAppleソフトウェアパッチは、Appleソフトウェア・アップデート・サービスと統合することで、混乱

を最小限に抑えて簡単に導入できます。ソフトウェア・パッケージ・ライブラリと堅牢な導入ツールでも、サードパーティのソフトウェアのパッチングが簡単になります。ダイナミックなインベントリ収集とはつまり、ソフトウェアのバージョンに関する推測が存在せず、アップデートが必要なシステムに絞ってアップデートを実行するという事です。保護層の追加については、Jamf ProはAppleのネイティブ・アプリケーション・セキュリティ・システムであるGatekeeperに対応しており、信頼性の高いソフトウェアのみを各Macにインストールします。

ユーザーセキュリティ：適合性があり優秀

Jamf Proでは、ユーザー認証の安全性とパスワードの適合性を確保するためにActive Directory結合を自動化します。macOSとしっかりと統合することで、ユーザーの完璧な安全を確保するためにローカルのユーザーアカウントも管理します。追加の安全対策として、ローカル管理アカウントのパスワードをランダム化して、不正アクセスが入り込む隙を作りません。

結論

汎用的アプローチとは、最善の選択肢となることは少なく、厳しいトレードオフを強いることが多いものです。マルチプラットフォームツールはITの基本的なニーズにしか対応できず、そのインベントリ機能、導入機能、セキュリティ機能に限界があります。Jamf Proでは、IT管理者はAppleファースト、Appleベストで構築されるツールを獲得できます。

最善のソフトウェアは単なる手始めにすぎません。Jamfのお客様には、Apple ITに特化した企業と仕事をする上での違いをご実感いただけます。サポートスタッフは親切な対応を心掛け、Appleテクノロジーに精通しております。プロジェクトのサポートにはエンジニアがすぐに対応いたします。専門知識を習得できるように、認定コースとトレーニングコースをご用意しております。Jamf Nationコミュニティには2万人のApple ITエキスパートがいます。



www.jamf.com

© 2016 Jamf, LLC. All rights reserved.

MacとiOS管理に対するJamf Proの作用の詳細については、jamf.com/jaをご覧ください。